

立石 伯書

『死霊』の生成と変容

壇谷雄高のウィジョンと無限の自由

随感録

現実の感受法と熟視のために



四六判・224頁・2500円
深夜叢書社
978-4-88032-440-1
info@shinyasosho.com

今は未法の世ではないの
かと。しかもこの未法
は釈迦の教えが廃れたば
りではない、モーゼの教え
もイエスの教えもモハメッ
トの教えも、みんな有効期
限が切れてしまったのだ。
仏教では、未法の世から救
つてくれるのは五六億七千
万年後に出現する弥勒菩薩
だとされているが、その頃
は太陽系そのものが消滅し
ている計算だと、藤枝静男
が皮肉に書いていた。しか
しそれは案外、仏教的虚空
思想の真実なかもしれな
い。

立石伯が一〇月三〇日の
同日付で二冊の著書を刊
行した。『死霊』の生成
つは、『死
霊』は「近代文学」に連載
されてきた第四章までと、そ
れから二六年の空白を挟ん
で「群像」に発表されて行
く五章から九章までとは
様相を変えているところが
あるが、その変容の実態や
原因の究明。三つは、『死
霊』の最終章発表後に書か
れた『虚体論―大宇宙の
夢』、『死霊』断章』な
どのエッセイと『死霊』と
『死霊』の生成

『死霊』論の新地平

基礎的な作業を綿密克明に追求する

勝 又 浩

の関連、その読解である。
『死霊』論はたゞさんある
が、こうした基礎的な作業
をここまで綿密克明に追究
した例はまだないと思う。
著者はそのうえで、最後に
「世紀を超えて生きる『死
霊』」なる結論的一章を置
いて、『死霊』の、いわば
未来的な意味、意義を概括
している。そのアウトライ
ン

て」などとともに、世界文
学の一翼に位置づけられる
ようにさななってきたので
ある。
こういうところを讀ん
で、私は大きく頷いた。そ
れが壇谷文学なのだ。実
は、これがまさに立石伯の
「驚異」も、それはそのま
ま壇谷雄高という存在に憑
りつづけた立石伯という批
評家のそれなのだ。

間にはわたって、『死霊』に
ついて想像し、思索しつづ
けてきたということができ
よう。この精神のあり方自
体が謎であり、驚異である。
この、『死霊』に憑りつ
かされた壇谷雄高の「謎」も
「驚異」も、それはそのま
ま壇谷雄高という存在に憑
りつづけた立石伯という批
評家のそれなのだ。

以上で以後を貫く棒の如き
神を、我を、疑いながらも
希求し模索し続けている一
人として、深い共感を以て
讀んだのである。(かつま
た・ひろし)文芸評論家
★たいていし・はくし文芸
評論家・作家。法政大
学院博士課程単位修得後
中退。著書に「壇谷雄高
の世界」「石川淳論」極
限の夢に憑かれたものの
究極「ドストエフスキ
イの『世界意識』」「朔
風」「西行校外伝」「玉
かづら」など。一九四一
年生。

随感録

立石 伯

現実の感受法と熟視のために



石川啄木、永井荷風、森 鷗外、大岡昇平、
福原野矢、岡田静香、石川洋次、アスト
ル・アキハル、文学者たちの選んだ卓抜な下
見が示唆するものはなにも。2010年代日本の
危機感と立石への畏怖。 2015年

新書判・208頁・1800円
深夜叢書社
978-4-88032-441-8
info@shinyasosho.com